

御国の称賛をうける者！！ 陶器師の手にゆだねよ 「2・不正の富で友を」

ルカ16：1-13

■ 人は幸せにするために存在している

アインシュタインが色々なところで講演をしていた際にある子どもが「人はなんの為に生まれるのですか!？」という質問をしました。そこでアインシュタインは「人を幸せにするため!」と答えました。アインシュタインはどうやって周囲の人を幸せにするのかを考えながら毎日色々な事を考えて人生を生きていた事がわかります。

■ 最後の晩餐の壁画

この絵画の価値が分からない人が、イエス様の十字架に向かう足が組まれる姿が描かれている所に扉を付けてしまいました。この箇所は復興できなかつた為、未だに扉のままになっています。私たちの人生もこのようなことが起きていないか価値が分かっていると私たちは自分たちの大切なものを忘れてしまって結果、私たちがどのように生きていくのかが分からなくなってしまうことがあります。

■ 相手の事を許すということ

この管理人が主人の財産を乱費している。という訴えが出されました。(16:1) 物事を見るときに、私たち側の目線から物事を判断してしまうと、聖書の本質が分からなくなります。イエス様は不正な人のやり方が正しいと言ったのか!という考え方を持ってしまうことがあります。

管理人は心の中で言いました。主人にこの管理の仕事を取り上げられるがどうしよう。土を掘るには力がないし、こじきをするのは恥ずかしいし (16:3) 管理の仕事や辞めさせられても、人がその家に私を迎えてくれるだろう。(16:4) 悪いことをしている人はバテた時どうするか!それは嘘をつくとか、ごまかすとか、消し去るとか、口裏をあわせるとか、要するに自分が罪を犯したことを何とかしてごまかすのではないですか!しかしこの管理人は悪いことをした後どのようにするかを考えた結果罪を重ねたのではなく、相手の事を赦してあげました。

■ 自分のために友を作る

フロイトがこんな話を残しています。ある人が海で旅をしていると、船が難破してしまう。彼は泳いだ先が無人島だと思っていたらそこに原住民がいた。普通は殺されてしまいそうな場面ですが、彼はその島で王様になりました。実はその町には外から入ってきた人間を一年間王様にし、その後、無人島に島流しにしてしまうという風習があったのですそれを知った彼は自分の本当に忠実に仕えてくれた人とか非常に良くしてくれた人を自分が流されるであろう島に送って色々な仕事をさせ、その人達に良くしました。一年の間に新しい国を創り、一年後に備えたのです。結果か彼は生涯その島の王様であり続けました。「不正の富で自分のために友を作りなさい。そうしておけば、富がなくなるなるとき、彼らはあなたがたを永遠の住まいに迎えるのです。」(16:9)

■ 不正な管理人と不正の富

律法学者からみた不正。ここで裁く人から見た不正は何!彼らはイエスキリストが何をしたら怒ったのか!あなたの罪は赦されたと言った時パリサイ人は「お前は神なのか」と怒ったのです。人の罪を赦すとは何事かとパリサイ人たちにとっては罪を赦す行為は神の越境でした。パリサイ人たちから見ると不正はイエスキリストだったのです。この不正の管理人は弟子たちであり、その代表が、私達の模範となり私達に神の赦しを与える為に十字架に架かれたイエスキリストだったのです。

■ 私は誰のものなのか

人間の価値を1デナリとうたっています。神様は私達の価値をお金に換算したりしません。なのになぜお金に換算するような描写がなされているのでしょうか。この世でお金、富というのは権限がある人の

象徴となりました。そのような者で人間の価値を測ろうとしたのは人間です。ですから既に不正なのです。自分で稼いでいるから、自分が持っているもの不正ではないというのは違うのです。この地上で預けられているものを自分のもののように思っていることに問題があるのでこれが、中心が「私」となってるという事なのです

■ 本当の友

自分のために友をつくっておけば彼らはあなたがたを永遠の住まいに迎えるのです (16:9)

あなたに任されたものはもうすでに不正なのだわかりました。私たち自身も罪人のかしらで罪人の中心なのだ。自分を責めている人がいるけどそれもしてはいけないのです。神様はあなたを傑作として造ってあなたがもし私に聞くのなら私はあなたに伝えると教えてくれています。

小さい事に忠実というこの小さい事は、預かっているものを大事にする人のことを言っています。大きいことに忠実というこの大きい事は、天の御国で行われる救いです。天の御国で思われる神の計画です。あなたが今任されている小さいこと、それはあなた自身もそうです。自らをしっかり管理して大切にしなければ、あなたに用意されている天の御国の計画を受け取ることが出来ないのです。また、あなたがあなたによって預けられた自分の賜物を人のために用いて生きようとする時その人は本当の友になります。

■ あなたを誰かに与える

(動画) 一人の貧しい男の子が昼食の時間になっても自分の弁当箱の中には何もありません。空腹を満たすために水を飲みに出て、戻ってみると自分の弁当箱の中にはクラスメイトがそれぞれ分けてくれたおかずが入っていました。自分の物だと思っている人には出来ません。ですからあなたは、あなたを預かっています。だから、あなたを誰かに与える。それがイエス様が為された十字架です。

さいごに

なぜ聖書はお金にこれだけ描写しているのでしょうか!なぜならば、私たちの価値を自らがお金だと思っている人が多いのです。だからイエスキリストはお金について不正の富と呼びました。聖書が伝える悪とは預かっているものを自分のもののように考える人のことを悪と呼んでいます。神様は教会を自分のものにするのを嫌います。あなたが持てるものをおろそかにする事があなたのものにするという事です。自分の任されたものに対して(自分自身も含む)大切に最善を尽くしましょう。

あなたは任されたことを思い出しましょう。自分は本当に自分のものではないということを神様に委ねていきましょう。

(要約者:西崎 孝之)

(2024年1月21日)